



株式会社ユニカフェ
2023年度 サステナビリティレポート

2024年 3月

ユニカフェグループが考えるサステナビリティ

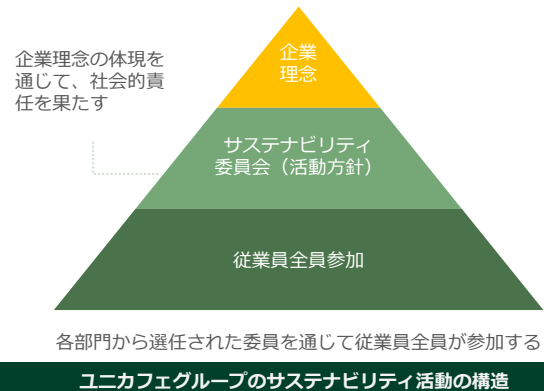
はじめに

わたしたちは、企業理念に掲げる「人と環境に優しい企業」を目指しています。コーヒー産業を取り巻く人と環境には、国際価格に左右されるコーヒー農家の収入、強制労働や児童労働など人権侵害の可能性を孕んだ就業環境、また栽培から消費に至るまでの温室効果ガスの排出、気候変動による生産環境の悪化などの問題があります。これらの問題はSDGsの目標とも深く関連しており、優先的に取り組む必要があると考えています。

わたしたちは、上記の問題をはじめとするSDGsの目標達成に貢献すべく、2021年よりサステナビリティ委員会を組織し、「Think Globally As a Roastery（コーヒー焙煎のプロとして、地球規模で考えよ）」のスローガンのもと、サステナブルな活動に取り組んでおります。



「コーヒーをコアに人と環境に優しい企業を目指す」

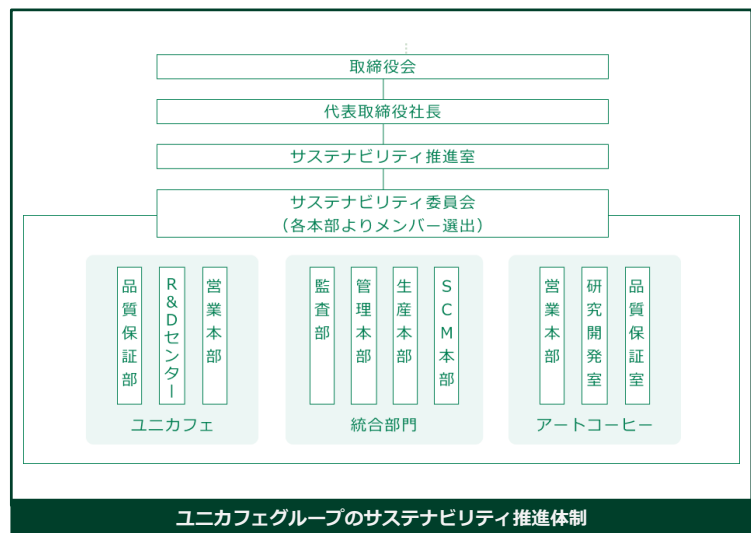


推進体制

ユニカフェグループでは、サステナビリティへの対応を全社的かつ組織横断的なものとし、円滑かつ効果的に推進することを目的として、2023年4月にサステナビリティ推進室を発足し、右図のようなサステナビリティ推進体制で活動を行っています。

活動の運用管理をサステナビリティ推進室が行い、具体的な取組みの遂行は各本部からメンバーを選出したサステナビリティ委員会が行います。推進室と委員会で定期的に進捗報告会を行い、連携を図っています。

委員会での検討結果は適宜取締役会へ報告の上、経営戦略として反映していきます。



2023年度の活動について

マテリアリティの策定

委員会では企業理念の下、「人」と「環境」に着目して活動を展開しており、様々な活動分野の中から①教育・研修、②コミュニケーション、③生産国支援、④原料、⑤温室効果ガス排出量の削減を優先順位の高い目標として、担当制で活動してまいりました。

昨今、委員会発足当初以上に、気候変動をはじめとした国際的な課題への切迫度が増す中、サステナビリティ推進室の発足に伴い、わたしたちがどのように持続的な企業としてあり続け、国際社会に貢献していけるか、を改めて問うべく、社内外のより多くのステークホルダーを巻き込み、皆様のご意見を反映した目標であるべきとの思いから、新たにマテリアリティ(重要課題)の策定を行い、目標の見直しを行いました。

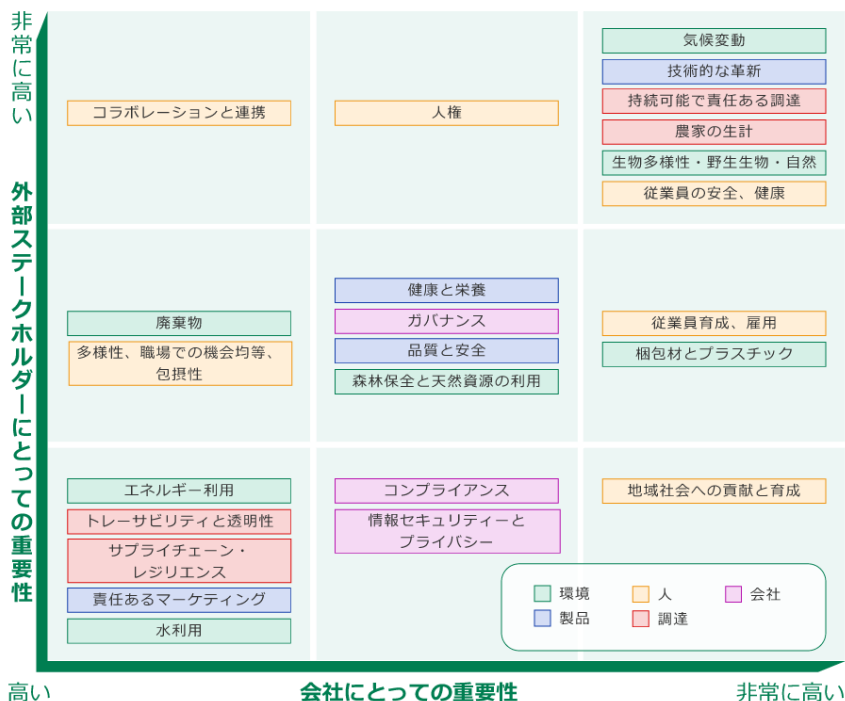
マテリアリティ特定のプロセス

1.	課題の特定	GRI、SASBなどの国際基準に準拠した様々な観点から、コーヒー業界に関わる社会課題を抽出しました。
2.	社内ヒアリング	従業員に対してアンケート調査を、また役員に対してインタビュー調査を行い、ユニカフェグループへの期待、取組むべき課題等への認識を確認しました。
3.	トレンド予測など外部環境分析	2050年までの世界を取り巻く状況がどのようなになるか、予測文献などを参考に、今後会社として取組むべき視点、事項を確認しました。
4.	社外インタビュー	1～3の結果をもって、ユニカフェグループのお取引先様へインタビューさせていただき、グループに期待すること、今後取組むべき課題等についてご意見をいただきました。
5.	重要度評価／マテリアリティ特定	社内外の調査結果を踏まえ、会社にとっての重要性和外部ステークホルダーにとっての重要性の2軸で重要度を評価の上、マテリアリティを特定しました。

2023年度の活動について

マテリアリティマップ(重要度評価)

5つのプロセスを経て、わたしたちは社内・社外にとっての重要性を2軸として重要度を評価しました。検討したどの課題も、社会的な重要度は高いため、評価軸の幅は最低でも“高い”とし、最も重要な課題は“非常に高い”となっています。



ユニカフェグループのマテリアリティ

様々な調査と協議を経て、最終的に下記の5つがわたしたちのマテリアリティとしてまとめられました。昨年までの委員会活動は具体的な取組みとして組み込まれ、継続して取組んでおります。

1. 気候変動・自然環境改善への貢献	気候変動リスクを緩和し、自然環境を改善するためにできることを実施します。
2. 持続的なサプライチェーンの維持	コーヒー産業の維持・発展のため、サプライチェーンの現状を見つめ、未来に向けた再構築を行います。
3. 高品質な製品・魅力的な価値提供	お客様・消費者の方々に寄り添い、時代に合った価値を提供できるよう製品や新分野の開拓に努めます。
4. 多様な人材の活躍と連携	ユニカフェグループに関わる誰もが心身ともに健康的に人生と仕事を両立できるよう、生産地、従業員の人権を守り、パートナー様、地域の方々などにより良い影響をもたらすよう努めます。
5. コーポレート・ガバナンスの徹底	全てのステークホルダーのために、自律的に、かつ透明性を持って統制します。

1. 気候変動・自然環境改善への貢献

ユニカフェグループが目指す姿

コーヒーは、栽培時の気温や降雨量に生育が大きく左右される作物であり、気候変動による課題を多く抱えています。ゆえに気候変動への対応は、産業そのものの維持発展に大きく影響する重要課題です。

ユニカフェグループは、異常気象や自然災害の原因となる気候変動を緩和し、また自然への負荷を低減・回復させることに貢献する取組みを行い、持続可能な社会の実現を目指します。

具体的な目標として、2025年までにScope1・2でのGHG(温室効果ガス)排出量を46%削減(2019年比)すること、また2040年までにScope1～3においてカーボンニュートラルの実現を目指しております。

ユニカフェの取組み

2023年度の取組み

再エネオフィスへの移転



ユニカフェグループは、2023年2月より本社オフィスに移転し、再生可能エネルギーを100%使用したオフィスへ移転しました。これにより、ユニカフェの工場・オフィスの電気利用によるCO₂排出量はゼロとなっております。

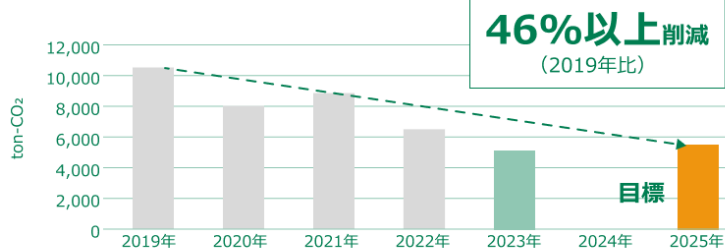
2023年度の取組み

GHG排出量削減推移



今年度より、CO₂排出量の算定対象を工場のLNG・電力からグループ全体の熱源・電力に広げました。工場・オフィスの再エネ化により順調にCO₂排出量を削減し、2019年比で目標の46%を上回る54%の削減を達成しました。製造量に左右されるため、目標は46%以上の継続削減を目指します。

Scope1,2排出量の実績値と目標値



2023年度の取組み

太陽光発電パネルの設置・発電



2023年8月、神奈川総合工場の屋根の一部に太陽光発電パネルを設置いたしました。2023年度の総発電量は1,607.05kWhでした。今後も設置場所の拡大を検討してまいります。

2024年度の目標

2024年度もCO₂排出量の削減につながる施策を引き続き検討してまいりますとともに、自然環境改善に向け、現状の整理・今後の対策を検討する1年にしたいと考えております。

2. 持続的なサプライチェーンの維持

ユニカフェグループが目指す姿

「From seed to cup」 - 遠く離れた生産地から、皆さんのマグカップにコーヒーが注がれるまでの間、コーヒーは様々な人の手を経て旅をします。

わたしたちは、最終工程の焙煎・販売業者としてサプライチェーンの鎖の一つを担っていますが、消費国の一員として、このサプライチェーン上の全ての人が当たり前に幸せにコーヒー産業に従事し続けられること、また誰もが気軽に品質の高いコーヒーを楽しむ続けられること、双方をサポートする責任があります。

ユニカフェグループは、自らの調達における方針を改めて明文化するとともに、ビジネスパートナーの方々と共に、持続的なサプライチェーンの維持に向けて協力して取組んでいきます。

ユニカフェの取組み

2023年度の取組み

苗木の取組み継続



コーヒーの木は病気や老化により収穫量が低下するため、安定的な生産には定期的な植え替えが必要です。近年、国際価格の変動や気候変動によるコーヒー生産者への脅威が増しており、その必要性がさらに高まっています。わたしたちは、生産者が安定してコーヒーを生産し、収入を得られるように、生産者への苗木の寄贈、ならびに同エリアから継続的にコーヒーを購入する取組みを2022年よりスタートさせました。2022年のベトナム、グアテマラに加え、2023年は新たにブラジルへの寄贈も行いました。各生産国への寄贈本数は下記の通りです。

2023年度 苗木寄贈実績

2023年実施月	寄贈国	本数	
		2023年実績	2022年からの累計
5月	ベトナム	34,400	46,600
7月	グアテマラ	11,000	21,000
12月	ブラジル	10,500	10,500
合計		55,900	78,100

※2023年のグアテマラはこの取組みにご賛同いただきました企業様の寄贈分1,000本を含みます。

2023年は、各生産地に実際に赴き、苗木を寄贈するとともに前年に寄贈した苗木の生育状況を確認したり、実際に生産地の方々にお話を伺うことができました。

来年以降もより良い活動ができるよう、今回の成果を活かしてまいります。

各生産国での寄贈の様子を次ページにご紹介いたします。

2. 持続的なサプライチェーンの維持

【ベトナム】 2023年5月22日～24日の3日間にかけて、ベトナムGia Lai省の4エリア（Dak Doa, La Ve, La Bang, La Phin）のコーヒーの木の植え替えを検討していたコーヒー生産者172世帯に対し、高収量でさび病に耐性のあるロブスタ種の品種「TR4」の苗木34,400本（1世帯あたり200本）を寄贈しました。



【グアテマラ】 2023年7月6日
グアテマラ Santa Rosa県Ayarza地区のコーヒー生産者50世帯に対し、さび病に耐性のある品種 Anacafe14の苗木10,000本の寄贈を実施しました。また、わたしたちの取組みにご賛同いただいている企業様より、別途1,000本の寄贈をしていただきました。

【ブラジル】 2023年12月11日
Minas Gerais州 São Sebastião do Paraíso地区のコーヒー生産者2世帯に対し 10,500本（1世帯あたり5,250本）の苗木の寄贈を実施しました。苗木の品種は高収量で高いさび病性を有する為、生育が安定している品種である「Catucaí Amarelo 2SL」「MGS Paraíso 2」（アラビカ種）を寄贈しました。あわせて、土壌整備用の石灰や生育促進として使用する肥料を各農家へ提供しました。



各国ともに、寄贈時には現地パートナーにより栽培方法の指導を行っており、各国生産者の方々から感謝のお言葉をいただいております。

2024年度の目標

2024年も継続して同国への苗木の寄贈と同エリアからのコーヒーの購入を継続してまいります。

2. 持続的なサプライチェーンの維持

2023年度の取組み

SEEDING FOR THE FUTUREの取組み開始



わたしたちは、苗木寄贈の取組みを「SEEDING FOR THE FUTURE」-未来への種まき-とし、この取組みにご賛同いただけるお取引先企業様や、消費者様にもご参加いただける取組みとしました。

この活動の輪を広げていくことで、皆様とともにコーヒー産業をサステナブルにしていくことに貢献していきたいと考えております。

また、それに伴いロゴマークを作成いたしました。こちらのロゴがデザインされた製品の売上の一部は、苗木を寄贈する費用に充てられます。



取組みの詳細をご紹介する専用サイトを制作中です。近日中に公開できるよう準備を進めております。

(<https://www.unicafe.com/seedinglogo>)
こちらのQRコードからもアクセスいただけます。



2023年度の取組み

UNICAFÉ

3. 高品質な製品・魅力的な価値提供

ユニカフェグループが目指す姿

わたしたちの事業を持続的に発展させていくためには、常に高品質な製品を安定的に供給していく誠実さが不可欠です。また、常にお客様や消費者に寄り添った製品を提供するためには、時代や価値観に合わせて魅力的な製品をご提案する柔軟さも必要です。

平均寿命が延び、少子高齢化が進む中、心身共に永く健康を保ち、自律した生活を送り続けることが、多くの人の願望であり、今後益々求められるニーズであるとわたしたちは考えております。

日常的に飲用するコーヒーで、これまで通り癒しや活力を与える一方、新たな時代への挑戦として、健康などに配慮した機能・高付加価値製品をご提供し、新たなコーヒーの価値をご提案するべく、研究・開発を進めてまいります。

2024年度の目標

2023年度、この新たな挑戦をマテリアリティの一つとして掲げました。

2024年度のサステナビリティレポートで、経過もしくは成果をご報告できますよう、努力いたします。

4. 多様な人材の活躍と連携

ユニカフェグループが目指す姿

企業の発展は、従業員一人ひとりの活躍・成長とともに実現されます。ユニカフェグループが永続的に発展し、企業価値を向上していくために最も大切な資本の一つを「人材」と捉えています。自ら考え、行動できる人を育てること、また彼らがそれぞれの強みを見つけ、能力を発揮していく上で適切なキャリアパスを設定し、自ら実感を持って成長し続けられる環境・チャンスを提供できる人材育成を行ってまいります。

一方で、労働人口の減少や少子高齢化に伴う育児・介護の課題等、現代社会特有の課題もある中、個々人の人権が尊重され、多様性・それぞれのワークライフバランスを尊重しながら、安全・安心に働ける「職場環境」の整備も不可欠なものと考えております。

ユニカフェグループは、「人材」と「職場環境」を両輪で組織戦略として取組んでまいります。更に、わたしたちを近くで支えてくださる地域社会に貢献し、ご恩を還元できるよう、連携してまいります。

ユニカフェの取組み

- ・サステナビリティ情報の発信
- ・コーヒー教育(社内資格、麗澤中高との取組み紹介)
- ・無事故ーヒー配布

2023年度の取組み

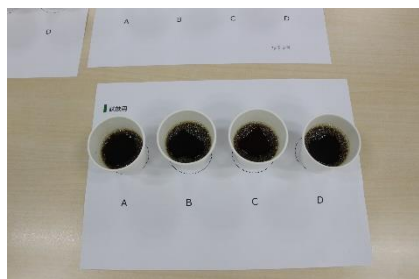
社内向けサステナビリティの啓蒙活動



サステナビリティ委員会では、全従業員のサステナブルな活動への理解を深めるため、社内報「サステナビリティ通信」を社内に向けて発信しています。サステナビリティ通信では、SDGsについての知識や理解を促す内容を、委員持ち回りの特集記事やクイズによって、身近に感じられる形で発信しています。

また、人事総務部と連携をして社内のコーヒー教育も行っています。2023年度は新たにユニカフェコーヒーマイスター制度が発足し、コーヒー製造に関する専門的な知識の研修を全従業員向けに行っております。コーヒーのプロであり続けるために専門知識は必要です。

同時に、コーヒーの製造を俯瞰的に見ることでメーカーとしてサステナビリティへ貢献できるポイントはどこか見極められるようになって考えております。



4. 多様な人材の活躍と連携

2023年度の取組み

社外へのサステナビリティ情報発信



サステナビリティ委員会では、社外へサステナブルな考え方を発信するため、学生に向けたサステナビリティ研修を開催しております。2023年度は、廣池学園 麗澤中学校・高等学校の生徒さんとともに、「企業がサステナビリティ活動に取り組む意義」や「コーヒーを通じて世の中へサステナビリティを広げる方法」をテーマにディベートし、お互いの学びを深めました。年代も社会的立場も異なる人同士が一つのことを共に考える機会を持つことで、より本質的なサステナビリティにつながると私達は考えております。



2023年度の取組み

交通安全イベントへの参加



秋の全国交通安全運動期間中における交通事故ゼロを目指す日（9月30日）に伴い、2023年9月29日、厚木警察署により行われた交通安全イベントに参加いたしました。

本イベントは交通安全意識向上を図る目的として開催され、3回目の参加となります。当日は、当社が寄付した無事故を祈る思いとコーヒーをかけた「無事故ーヒー（ドリップバッグ）」を、厚木警察署や地域交通安全活動推進員の方々と共に、地域の皆様へ配りながら安全運転を呼び掛けました。（左記画像：寄贈式の様子）

2024年度の目標

より多くの方がサステナビリティに興味を持っていただけるよう、情報伝達の質を高めていきます。また、SDGsの理解を深める内容などの教育コンテンツ作りも検討してまいります。

人材育成方針や研修カリキュラムについては、より具体的に情報を開示できるように努めます。

5. コーポレート・ガバナンスの徹底

ユニカフェグループが目指す姿

わたしたちは、株主を中心とするステークホルダーをコミュニティとし、コミュニティに存在する共通の善を全うすることを正義として行動してまいります。そのために、コーポレート・ガバナンスを徹底するとともに、株主・投資家の皆様に対し、透明かつ健全な経営を全ういたします。

ユニカフェの取組み

2023年度の取組み

コンプライアンス研修の実施



わたしたちは、各種法令を遵守した企業活動を行うべく、年1回、全従業員を対象として、オンラインによる法令違反のケーススタディ研修を実施し、コンプライアンス遵守に対する意識を高めています。

2023年度の取組み

情報セキュリティ研修の実施



わたしたちは、年1回の情報セキュリティ研修の実施とともに、不定期でウィルスメールを模したメールを配信し、研修の成果として適切な対処ができているか、抜き打ちチェックを行い、再教育まで徹底しています。

2024年度の目標

今後も透明かつ健全な経営を継続すべく、法令遵守の徹底に向けた教育を計画的に実施してまいります。

